

# これまでの町の取り組み まちはゼロカーボンシティへ、 自然と環境を次世代へ引き継ぎたい。



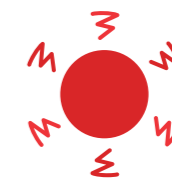
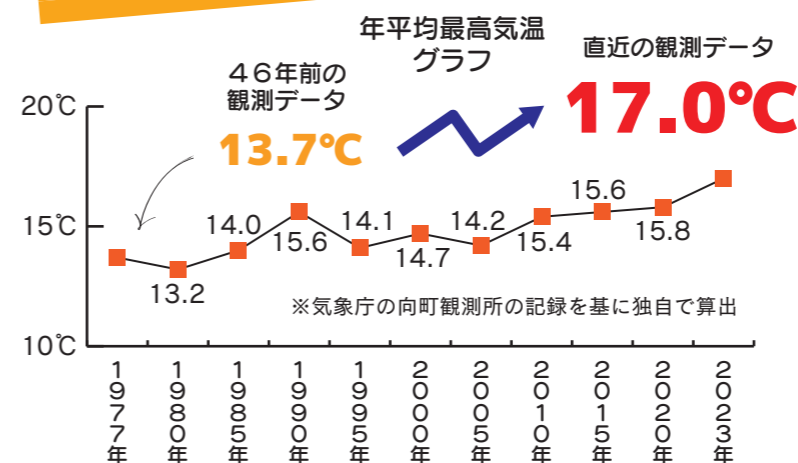
町はこれまで、平成25年に「最上町スマートコミュニティ構想」、平成27年に「最上町バイオマス産業都市構想」、平成29年に「最上町地球温暖化対策実行計画」をそれぞれ策定し、町として出来ることを検討し、温暖化に対して向き合ってきました。町域の8割が森林となっており、当町では地域資源を活かすために、木質バイオマスエネルギーを主力に脱炭素社会の実現に向けて事業を展開。他にも太陽光発電や温泉熱利用、地下水熱を利用した融雪システムなど、災害から町民を守るため、自立したエネルギーシステムの活用にも力を入れてきました。

その後、令和3年12月に最上の自然環境を次世代へと引き継ぐため、「ゼロカーボンシティ宣言」を行ないました。ゼロカーボンシティとは、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を表明した自治体のことです。令和6年3月時点で、全国の1078自治体が表明し、地球温暖化防止に向けて各地で取り組みが行われています。当町において今までの環境政策を更に推進していくものとして町民の皆様、事業者の皆様とともに取り組んでいきます。



## 地球温暖化による影響は 確実に進行しています！

向町観測所が開設されて46年。年平均最高気温が+3.3℃も上昇！？



対1977年比  
**+3.3℃**

向町観測所を開設して46年が経過した今、年平均最高気温が当時の13.7℃からプラス3.3℃も上昇していることがわかります。体感的にも温暖化を感じるようになりましたが、気温上昇は健康被害だけでなく、農作物や動植物の生態系にも影響を及ぼしています。

### 豪雨災害が増加傾向。命の危険も！

地球温暖化が進み、海水面の温度が上昇することで、豪雨や台風の発生が増加し、災害が増えると予想されています。私たちの記憶に新しいのは、平成30年に発生した豪雨災害です。大量の雨が同じ場所で長時間続く、いわゆる線状降水帯が河川の氾濫を引き起こす原因となりました。

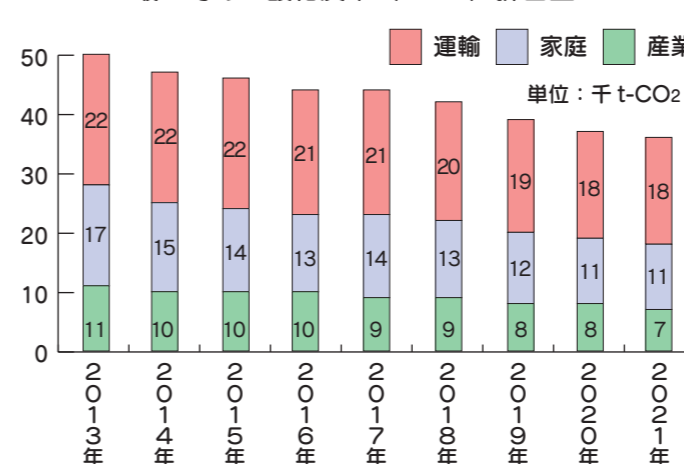


平成30年の豪雨災害時の白山橋

地球温暖化が豪雨災害の全ての原因ではありませんが、時として生命を脅かすほどの災害に見舞われることもあります。

### 二酸化炭素の排出量は人口減少と共に減少傾向に――。

最上町の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量



産業革命以来、人間は石油や石炭などの化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出し、経済を成長させてきました。その結果、大気中の二酸化炭素の濃度が産業革命前に比べて40%も増加したといわれております。

当町の二酸化炭素排出量は、人口減少と町民の皆様の努力もあり、年々減少傾向にあります。雪国である当町では、冬期間の暖房費が同規模自治体や全国平均と比較しても高い傾向にあり、温暖化を進行させないためには、今後も更なる努力が必要となってきます。

※左記表は環境省「自治体排出量カルテ」を基に独自で算出

### CO<sub>2</sub>削減に向けた町の取り組み



#### 平成25年3月～令和2年

- 最上町スマートコミュニティ構想  
再生可能エネルギーや災害に強いエネルギーシステムの構築を目的として策定。

#### 平成27年4月

- 最上町バイオマス産業都市構想  
医療・福祉・介護施設に対しての木質バイオマスエネルギー供給拡充、更には一般住宅に向けても供給開始を視野に構想を策定。

#### 平成29年3月～令和7年

- 最上町地球温暖化対策実行計画  
温室効果ガスの排出量の削減と吸収作用の保全を目的として策定。

#### 令和3年12月

- 最上町ゼロカーボンシティ宣言

最上町の環境政策の変遷